

報告 9 デンマーク・コペンハーゲン

特別支援学校 イエスパー校長の力説

9月22日、コペンハーゲン市営の特別学校＝フェンスマルクスコーランを訪問する。校長のイエスパー・クラウセンがたっぷり話してくれた。

デンマークの首都・コペンハーゲンコムーネ（自治体）の人口は約60万人（首都圏でカウントすると約201万人、2016年）。

この学校は、「一番支援度が高い子どもたち」のために市内で4校ある特別支援学校の一つで、自閉症や重度の知的障害のある子どもたちが、0年生～10年生まで（デンマークは義務教育は10年、10年生は希望者）、全市で400人、この学校には100人が学んでいる。

1クラス8～14人で8クラスがあり、各クラスは教師3人、ペタゴー3人、助手3人の9人のチーム。

低学年では、30時間の教科を履修する。近隣の5つの保育園と連携も密にして。中学年では33時間。高学年は35時間で「卒業後のSTUとも密な連携をしている」。STUでの3つの重要点は、①住まう、②仕事、③余暇の活動ができるようにすることで、ここではそれらを展望して教育をしている。

「市のSTU担当は当校の理事会メンバーで、特別保育園関係者も理事です」にはおどろいた。○できるだけ能力をつける。学校生活がウェルビーイングになるように。

○学習効果を最大限にして、子どもたちの最大限の発達を確保（保障）したい。

○一人ひとりに学習計画を作成している。週1度はチームで1時間の評価会議をもつ。校長や管理職（5人の役員会）は必要な事項は伝達するが、計画作成には関わらない。でも、最終責任は校長にある。

○移民・難民の子らが6割のなかで、多文化を含めたインクルージョンは大きな課題

○教育学習センターには教員が結集し、それぞれス



ペシャリストとして研鑽している。

○労働時間は週37時間。内教師には10時間、ペタゴーには5時間の「予習時間」がある。19.5時間が生徒指導だ。休憩時間（30分）は37時間のなかに含まれる。

○有給休暇は6週間ある。教師は、夏に4週連続で、秋休（1週間）、冬休（1週間）使っている。

「家族が一番大事。仕事はその次。生活のバランスがくずれてはいけない」イエスパー校長の力説だ。



性教育についてつっこんだ質問があった。

じつは、そのテーマを中心に訪問を予定していた学校が急遽キャンセルになった。そんななかでイエスパー校長は、学校訪問を受け入れてくれた。

そして校長は、最後にこんなことを言い出した。「私には10代の娘が3人います。難しい年頃です。そこで娘との約束で、来年のイースターホリデイ（4月中頃）の2週間、家族5人で日本に行くことにしています」「みなさんの学校など見せてもらっていいですか？」

一堂、おおーと大歓声(^_-)

「TOKYO（埼玉かもしれないけど）、OSAKA（ほとんど堺？）でぜひまた会いましょう！」（後ろではKAGOSHIMAも～とか聞こえたけど）と固い握手を交わしたのです。

（菌部英夫）